

千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第41週 (10/5-10/11) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	41週	40週	39週	38週
小児科	16	18	18	17
眼科	3	5	5	4
インフルエンザ*	25	27	27	23
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千		葉		市		千葉県
		注意報	10/5-10/11	9/28-10/4	9/21-9/27	9/14-9/20	9/28-10/4	
			41週	40週	39週	38週	40週	
小児科	RSウイルス感染症	○	8 0.50	7 0.39	3 0.17	2 0.12	66 0.49	
	咽頭結膜熱		3 0.19	3 0.17	0 0.00	3 0.18	22 0.16	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	38 2.38	21 1.17	14 0.78	36 2.12	238 1.76	
	感染性胃腸炎		45 2.81	73 4.06	46 2.56	59 3.47	395 2.93	
	水痘		3 0.19	6 0.33	2 0.11	6 0.35	46 0.34	
	手足口病	↓↓★	38 2.38	69 3.83	95 5.28	154 9.06	463 3.43	
	伝染性紅斑	↓	11 0.69	16 0.89	10 0.56	16 0.94	79 0.59	
	突発性発しん		15 0.94	17 0.94	3 0.17	16 0.94	79 0.59	
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.06	1 0.01	
	ヘルパンギーナ		9 0.56	13 0.72	3 0.17	18 1.06	64 0.47	
流行性耳下腺炎	○	11 0.69	8 0.44	10 0.56	3 0.18	114 0.84		
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		1 0.04	2 0.07	1 0.04	0 0.00	13 0.06	
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	流行性角結膜炎	↓	7 2.33	15 3.00	6 1.20	7 1.75	38 1.12	
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.11	
	マイコプラズマ肺炎		1 1.00	0 0.00	0 0.00	1 1.00	6 0.67	
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	20歳代	画像診断	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	女性	70歳代	細菌の検出及び薬剤耐性の確認
結核	男性	50歳代	IGRA検査等				
結核	男性	70歳代	病原体等の検出	急性脳炎	女性	10歳未満	高熱及び中枢神経症状等
アメーバ赤痢	男性	40歳代	血清抗体の検出	ジアルジア症	男性	30歳代	病原体の検出

・結核3件(174)、アメーバ赤痢1件(7)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(11)、急性脳炎1件(11)、ジアルジア症1件(2)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第41週のコメント

<RSウイルス感染症> 前週より増加し0.50となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より増加し2.38となった。過去10年の同時期と比べると最多。

<手足口病> 更に前週より減少し2.38となった。流行発生警報終息基準値を上回ったままで過去10年の同時期と比べると多い。

<伝染性紅斑> 前週より減少し0.69となった。過去10年の同時期と比べると多い。

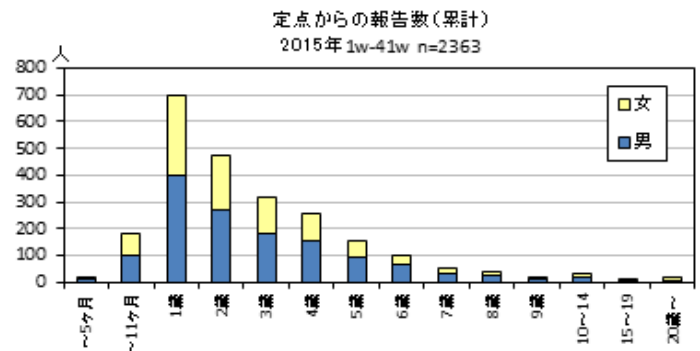
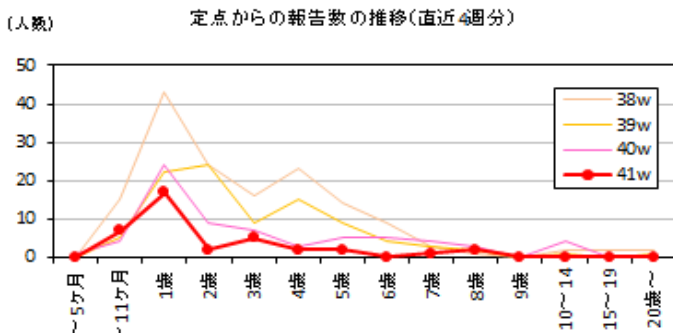
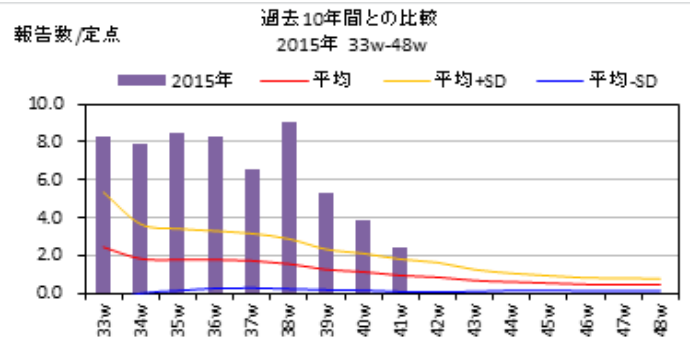
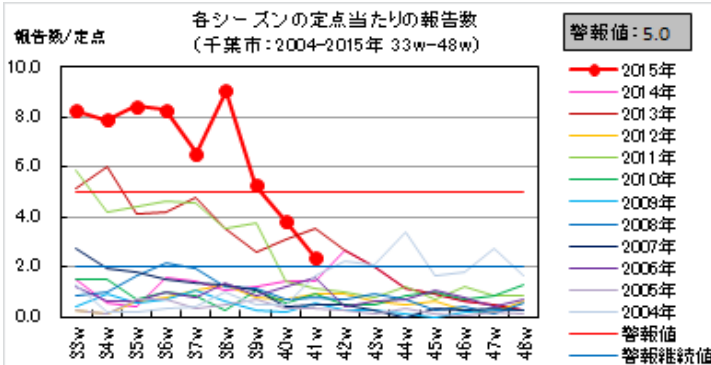
<流行性耳下腺炎> 前週より増加し0.69となった。過去10年の同時期と比べると多い。

<流行性角結膜炎> 前週より減少し2.33となった。過去10年の同時期と比べると最多。

■ トピック ■

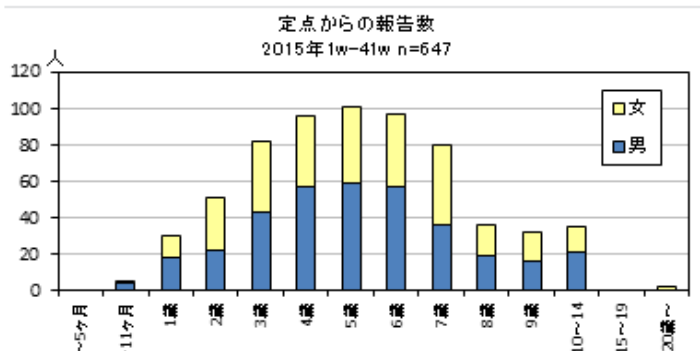
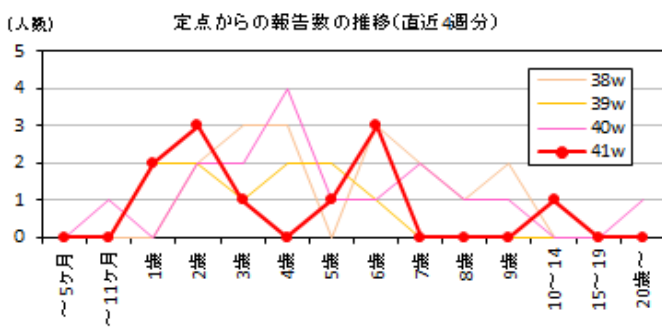
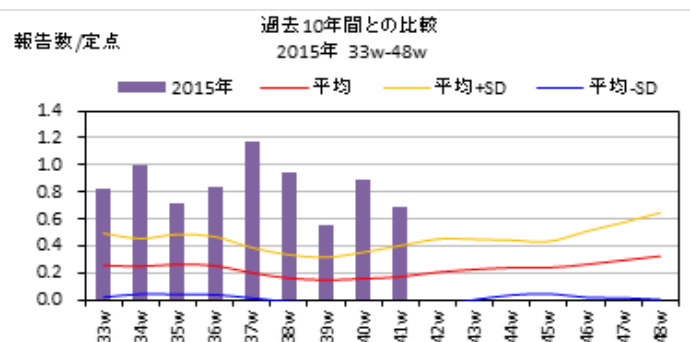
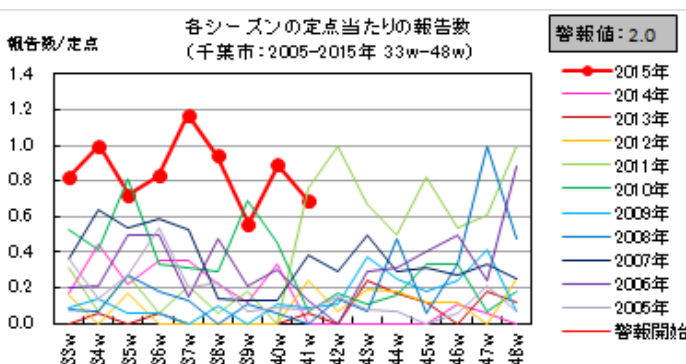
＜手足口病＞

全国レベルの第40週現在は、過去8年の同時期と比べると多く流行発生警報終息基準値(2.0/定点)を上回ったままとなっています。都道府県別では、宮城県、大分県、山形県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルよりやや多めとなっています。千葉市の2015年第41週は更に前週より減少し2.38となりましたが、過去10年の同時期と比べると多く、流行発生警報終息基準値を上回ったままとなっています。区別の発生状況は、稲毛区で流行発生警報開始基準値(5.0/定点)を上回っており、中央区、若葉区及び緑区では流行発生警報終息基準値を上回っています。稲毛区(5.33/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第41週までの累積報告数(n=2363)によると、性別では男性が57.3%(1354名)、女性が42.7%(1009名)で、年齢階級別では1歳(29.6%:699名)、2歳(20.1%:476名)、3歳(13.5%:319名)の順に多くなっています。



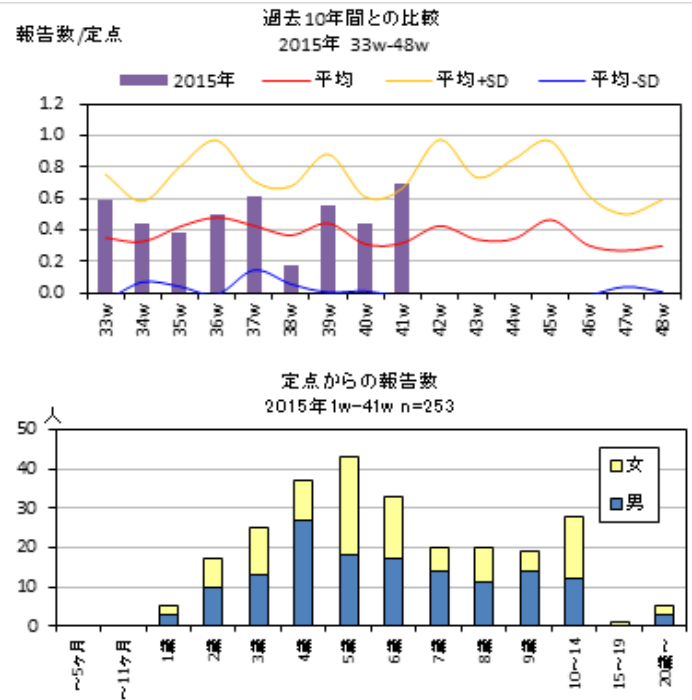
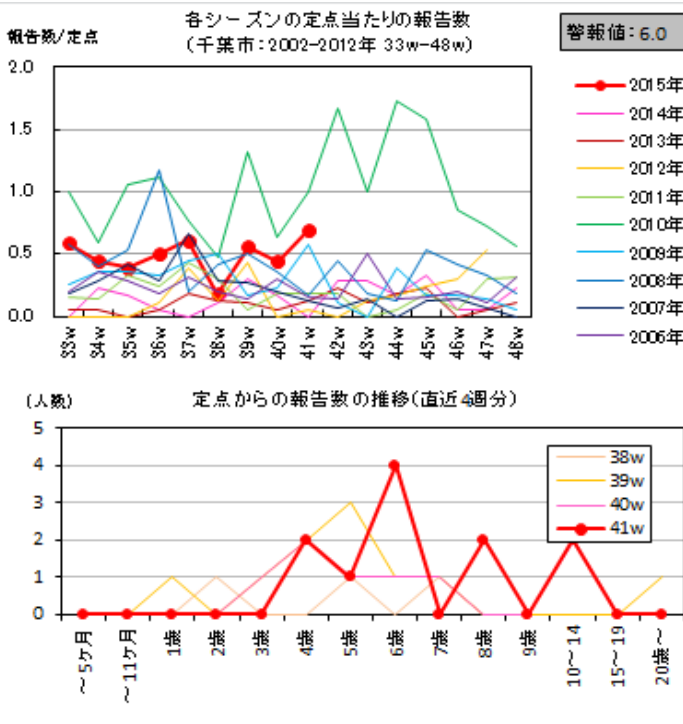
＜伝染性紅斑＞

全国レベルの第40週現在は、前週より減少しましたが過去8年の同時期と比べると最多のままとなっています。都道府県別では、大分県、長崎県及び鹿児島県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2015年第41週は前週より減少し0.69となりましたが過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、中央区及び稲毛区(ともに1.0/定点)で流行発生警報終息基準値と並び最多となっており、中央区では2歳のみ、稲毛区では3歳、6歳及び10歳前半での発生報告がありました。2015年第1週から第41週までの累積報告数(n=647)によると、性別では男性が54.4%(352名)、女性が45.6%(295名)で、年齢階級別では5歳(15.6%:101名)、6歳(15.0%:97名)、4歳(14.8%:96名)の順に多くなっています。



＜流行性耳下腺炎＞

全国レベルの第40週現在は、過去8年の同時期と比べると多めとなっています。都道府県別では、佐賀県、沖縄県、石川県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市の2015年第41週は前週より増加し0.69となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況は、若葉区(3.0/定点)で流行発生注意報基準値に達し最多となっており、同区の8歳及び10歳代前半で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第41週までの累積報告数(n=253)によると、性別では男性が56.1%(142名)、女性が43.9%(111名)で、年齢階級別では5歳(17.0%:43名)、4歳(14.6%:37名)、6歳(13.0%:33名)の順に多くなっています。



＜流行性角結膜炎＞

全国レベルは第34週から過去8年の同時期と比べると最多の状態となっており、第40週現在も同様となっています。都道府県別では、宮崎県、熊本県、鳥取県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルとほぼ同程度となっています。千葉市の2015年第41週は前週より減少し2.33となりましたが、過去10年の同時期と比べると最多のままとなっています。区別の発生状況は、美浜区(6.0/定点)で流行発生警報終息基準値(4.0/定点)を上回り最多となっており、同区の30歳代で最も多く発生報告がありました。2015年第1週から第41週までの累積報告数(n=135)によると、性別では男性が50.4%(68名)で女性が49.6%(67名)で、年齢階級別では30歳代(23.7%:32名)、40歳代(18.5%:25名)、50歳代(11.9%:16名)の順に多くなっています。

